

英語科教育法 I (第12講)

世界の英語



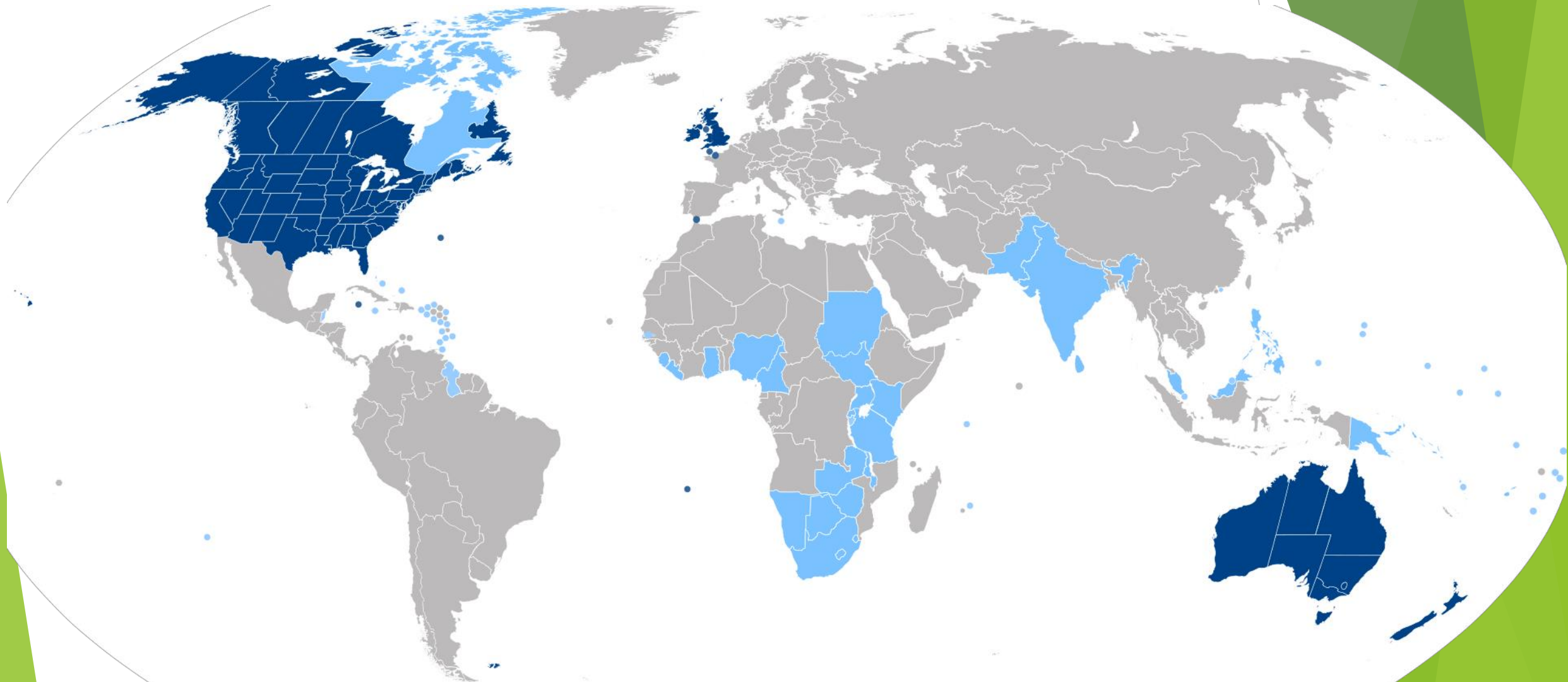
目次（世界の英語）

- ▶ 英語の種類：世界にはどのような英語があるか。
- ▶ 英語が使われている国々→地図を見ながら確認
- ▶ 英語は世界第2の話者数
- ▶ Kachruによる3つのCircle
- ▶ 英米英語から国際英語への
- ▶ 英語の規範
- ▶ アメリカ英語とイギリス英語
- ▶ 日本式英語





世界の英語の広がり



英語は世界に2番目に大きな言語となった経緯



- ▶ 英語はもともとはイギリスで話されていた。
- ▶ アメリカやカナダにイギリスから植民した。
- ▶ オーストラリアやニュージーランドへ植民した。
- ▶ イギリスとアメリカは世界中に植民地をもっていた。→植民地では、英語が公用語（第2言語）となる。
- ▶ 世界中で、人々は、英語を用いてコミュニケーションを行っている。英語は国際語となっている。

英語の種類（3種類）



- ▶ （1） ENL (English as a Native Language, 母語としての英語) : アメリカ、イギリス、カナダ、オーストラリア、ニュージーランドで話される英語
- ▶ （2） ESL (English as a Second Language, 第2言語としての英語) : インド、フィリピン、マレーシア、シンガポールなど英米の旧植民地で話される英語
- ▶ （3） EFL(English as a Foreign Language, 外国としての英語) : 日本、中国、韓国、インドネシアなどで話される英語

Kachruによる3つのCircle

- ▶ Kachruの世界の諸英語(World Englishes)のモデル、それぞれがENL, ESL, EFL の概念に対応する。歴史的、地理的な要素が反映されるように用語が選ばれている。
 - (1) the Inner Circle (内円圏)
 - (2) the Outer Circle (外円圏)
 - (3) the Expanding Circle (拡大円圏)
- ▶ 英語化(Englishisation) 世界中の言語が英語の影響を受けていること
土着化(nativization) 世界のそれぞれの英語が、現地の言語の影響を受けていること



世界で英語を話す人々の数

- ▶ 英語を母語とする人々→3億7500万人
- ▶ 英語を第2言語（公用語）とする人々→3億7500万人
- ▶ 英語を外国語とする人々→7億5000万人
- ▶ トータルの数→15億人
- ▶ どのような人が一番多いでしょうか？
- ▶ 世界の人口は69億人



英米英語から国際英語への



- ▶ 従来は英語の母語話者(ENL)のいる国（アメリカ、イギリス、カナダ、オーストラリア、ニュージーランドなど）で話される英語（これは英米英語と称します）がもっとも権威があり、英語学習の基準とされていたが、次第に国際英語への移行が見られる。この場合の国際英語とは、英語を第2言語(ESL)とする人々、並びに英語を外国語(EFL)として話す人々のことを意味します。
- ▶ 英語が第2言語として話される国（インド、マレーシア、シンガポールなど）の英語にも注目が集まるようになった。
- ▶ そして、英語を外国語として話す国々の英語にも注目されるようになりました。
- ▶ World Englishes

英語の規範： どのような英語を教えるか。



- ▶ 伝統的にアメリカ英語やイギリス英語が、特に日本ではアメリカ英語が基準として教えられてきた。
- ▶ しかし、現代ではもう少し柔軟に、英語が第2言語として使われている国の英語も基準にするような動きが起こっている。
- ▶ ただし、小学校や中学校の段階では、様々な英語の基準を教えると混乱する場合がありますので、1つの基準、たとえば、アメリカ英語を基準にして教えるといいたい。
- ▶ 高等学校や大学の段階では、さまざまな英語の変種があることを教えるとよい。そして、実社会に出て英語を使う場面では、むしろ英米英語以外の言語話者と英語を使うことが多いことも知ってもらうとい。



アメリカ英語とイギリス英語



- ▶ Colour
- ▶ Color
- ▶ Centre
- ▶ Center
- ▶ Aeroplane
- ▶ Airplane
- ▶ Cheque
- ▶ Check



基準・規範に関する色々な見解



- ▶ (1) 標準的な英語
- (2) RP (Received Pronunciation, イギリス英語の容認発音)
- (3) GA (General American, 一般アメリカ英語)

- ▶ (4) 学習者の目標をNSE(Native Speaker's English)とすることは難しすぎる。コストパフォーマンスが悪いと考えられる。世界の様々な英語を基準にすることも考えられます。World Englishes が考えられる。
- (5) 日本式英語
- (6) 簡略した英語 (NNSE=Non Native Speaker's English)であり、学習しやすいようにした英語である。そこでは難解な表現、古典的な表現、はやり言葉をつかわない英語である。文法を簡素化して、ゆっくりと話す。

国際語としての英語へ



- ▶ 英語は大切であるが、世界の様々な英語もそれなりに大切である。
- ▶ これからの時代は、特定の英語に絞るのではなくて、様々な英語に目を向けることが必要である。
- ▶ 関心を英語だけに絞るのではなくて、さまざまな言語にも関心を持つことが必要である。
- ▶ 言語だけではなくて色々なことにも、幅広く関心をもって、将来は国際間を飛び回る人材になってほしい。

日本の英語 (いくつかの実例)



1. コンセント → plug / wall socket
2. リフォーム → renovation
3. スキンシップ → personal contact
4. オーダーメイド → tailor-made
5. バイキング → buffet / all-you-can-eat
6. ノースリーブ → sleeveless
7. ワンピース → dress
8. ペアルック → same outfit
9. サイン → signature (署名)
/ autograph (有名人のサイン)
10. クレーム → complaint

なぜ日本は英語の力が弱いのか



- ▶ TOEFL等の成績をみても、日本人は英語のレベルが低いと言われている。
- ▶ 英語学習の必要性が少なかった。翻訳でほとんどの学問にアクセスできる。博士論文を日本語で書くことができる。例えば、原子力工学を日本語で勉強することができる。これらは旧植民地国では不可能なことであった。
- ▶ 他のアジアやアフリカの国のように植民地化されなかった。
- ▶ ヨーロッパ諸国の言語のように言語的に近しい関係にはないので、習得に時間がかかる。

課題



- ▶ (1) 世界の英語はどのように分類できるか。
- ▶ (2) 英語学習の規範はどのような英語か。
- ▶ (3) 日本人の英語の特徴を述べなさい。